

(2) 授業モデルの活用

表2 小学校5年生の一年間を通した「授業モデル」(教育出版「ひろがる言葉」小学国語5下)

過程	思考力の要素	1学期 「まんがの方法」 (問題提起文あり)	2学期 「森を育てる炭作り」 (問題提起文なし)	3学期 「日本語を考える」 (問題提起文、小見出しあり)
		指 導 の 工 夫		
つかむ	【A】 言語情報への主体的な働きかけ	<p>題名から内容を予想し、その予想と問題提起文に着目して初読する。 筆者の意見をまとめている段落を見付け、その段落の中心となる語句と問題提起文から「読みの課題」をつかむ。</p> <p><読みの課題></p> <p>「まんがのおもしろさを生み出す「まんがの方法」=「まんがに特有の表現方法」とはどんなものか」</p>	<p>題名にかかわる疑問に着目して初読する。 筆者の意見をまとめている段落を見付け、その段落の中心となる文と語句から「読みの課題」をつかむ。</p> <p><読みの課題></p> <p>「自然からのめぐみとはどんなことか」「人間のほうから自然にはたらきかけるとはどんなことか」「自然とともに生きるとはどんなことか」</p>	<p>題名から内容を予想し問題提起文、小見出しに着目して初読する。 筆者の意見をまとめている段落を見付け、中心となる語句と問題提起文から「読みの課題」をつかむ。</p> <p><読みの課題></p> <p>「これまでに気付いていなかった日本語の特ちょうとはどんなことか」「日本語の特ちょうを生み出し、受けついできた日本人のものの見方・感じ方とはどんなことか」</p>
		<p>【B】 言語情報の正確な把握</p> <p>【C】 言語情報と生活体験との関連付け</p> <p>【D】 既有的知識や体験に基づく言語情報の評価</p>	<p>「読みの課題」に沿って、おもしろさを生み出すまんがの方法」=「まんがに特有の表現方法」を表す「コマ」「背景」などの語句を取り出す。 表現方法ごとに本文と資料を関連させて読み、各「まんがに特有の表現方法」の特徴を説明する上で中心となる文を取り出す。 で取り出した中心となる文を活用し、表現方法の特徴を二文程度にまとめる。</p>	<p>「読みの課題」の答えや答えにつながる記述を取り出す。 で取り出した記述をグループに分け、グループ名を付けることで記述間のつながりを考える。 のそれぞれの学習で気が付いたことや考えたことを書いておく。 筆者の意見である「自然とともに生きる」とはどんなことかを、自分たちの生活体験と関連付けながらまとめる。</p>
まとめる	【E】 新たな思考の生み出しと言語化	<p>自分が一番おもしろいと思う「まんがの方法」を本文や持ち寄ったまんがを活用して文と資料(実例など)でまとめる。</p>	<p>読み取った筆者の考え方を基に「人間と自然とのかかわり」についての自分の考えをまとめる。</p>	<p>生活体験や学習経験の中で気が付いた日本語の特徴と日本人のものの見方・感じ方についてまとめる。</p>